

JMAP study 研究の概要

1. 意義と目的

糖尿病患者は年々増加傾向にあり、その予後を大きく左右する虚血性心疾患に対する治療法として冠状動脈バイパス術(CABG)が選択される場合、術前にどの程度血糖を管理しておけば良好な結果が得られるのかははっきりとしたエビデンスは存在しない。本研究では CABG 術前、術中、術後の血糖コントロール状況が、術後入院中の心血管死亡、入院中の心血管イベント並びに術後感染とその関連死亡および全死亡に与える影響を調べる。

2. 対象患者と選択基準

2007年 - 2008年の2年間に参加施設で行なわれた CABG 手術例(再手術を含む)の内、以下の条件をすべて満たす患者。

- (1) 虚血性心疾患に罹患し、単独の CABG 手術を受けた患者
- (2) 手術時年齢が 20 歳以上の患者

3. 除外基準

以下の合併手術を受けた患者は除外する。

大動脈瘤切除術、弁膜症手術、心室中隔穿孔閉鎖術、左室形成術、メイズ手術

4. 調査方法

中央登録方式による多施設共同、後ろ向き研究

5. 予定症例数と研究期間

登録予定症例数は、約 1,600 例、研究期間は 2009 年 9 月 - 2011 年 3 月とする。

6. 研究参加施設

岩手医科大学病院、自治医科大学病院、榊原記念病院、名古屋大学病院、半田市立半田病院、京都大学病院、京都府立医科大学病院、富永病院、和歌山県立医科大学病院、神戸大学病院、神戸市立医療センター中央市民病院、川崎医科大学病院、久留米大学病院、鹿児島大学病院

7. 個人情報保護に関する規定

本研究は後ろ向き研究であるが、患者は匿名化され、患者のプライバシーは保護される。また各参加施設の倫理委員会における審査を経てから実施する(京都大学で

は、医の倫理委員会で承認済み)。

8. 研究代表者

京都大学 心臓血管外科学 坂田 隆造

9. 京都大学附属病院における担当医師

京都大学 心臓血管外科 南方 謙二

(問合せ先)

京都大学附属病院 心臓血管外科医局

〒606-8501 京都市左京区聖護院川原町54

075-751-3784 / 075-751-3098 (FAX)

cvs@kuhp.kyoto-u.ac.jp (email)